

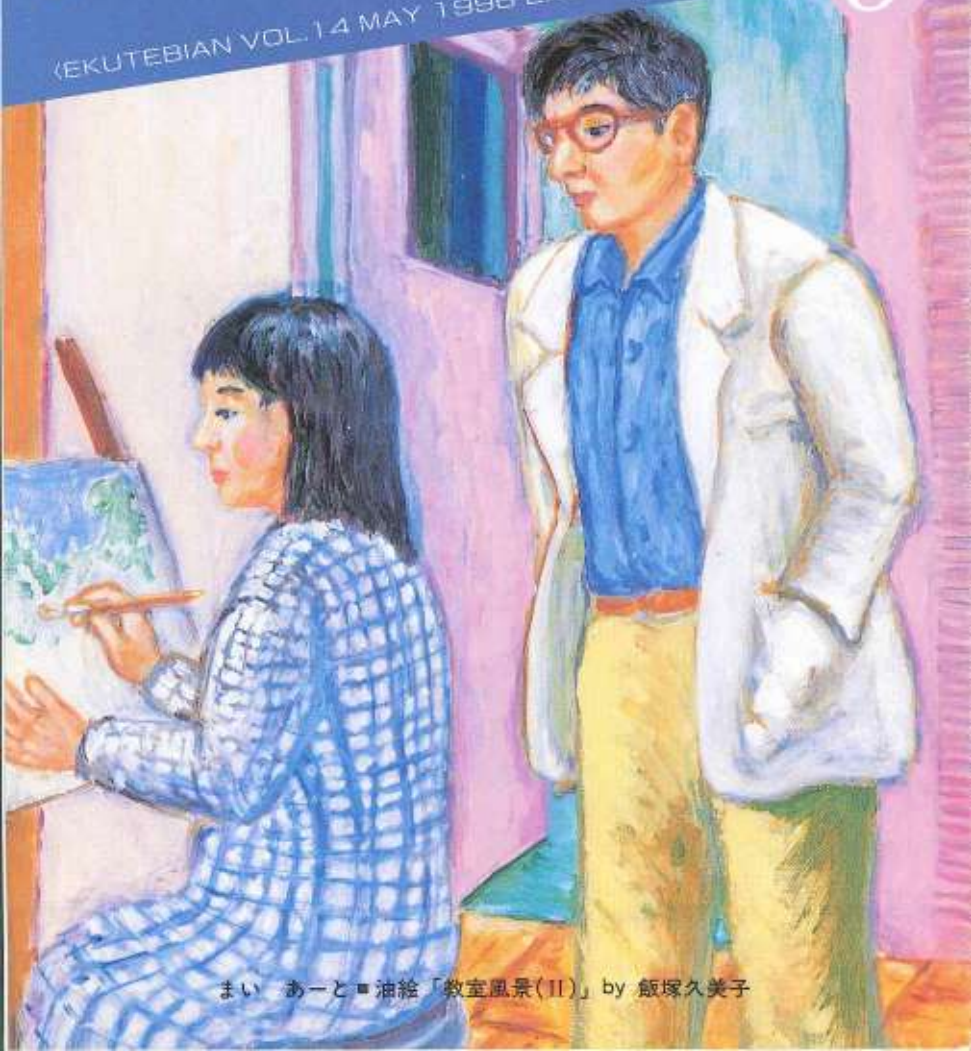
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

5

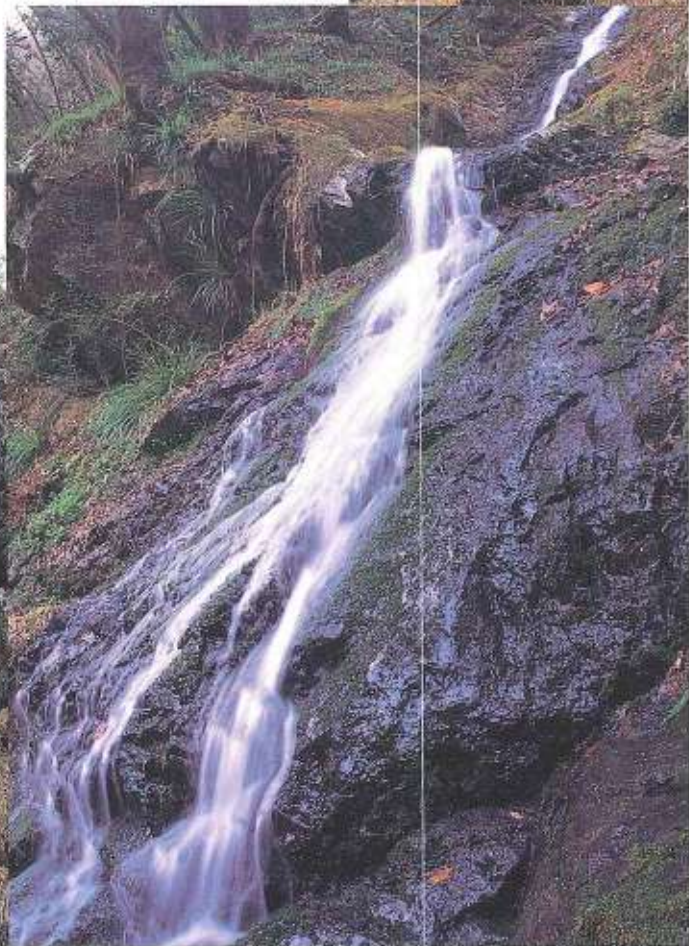
(EKUTEBIAN VOL. 14 MAY 1998 EKUTEBIAN)



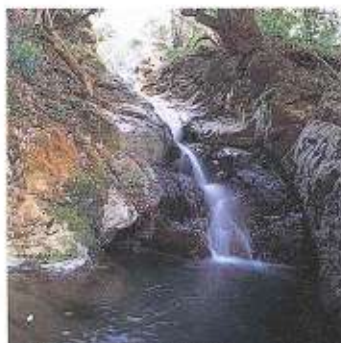
まい あーと ■ 油絵「教室風景(II)」 by 飯塚久美子

日の出町・白岩の滝

平井川の上流から日の出山への登山道を登り始めると、程なく白岩の滝がある。全長35mの三滝からなるナメ滝である。昔、夏の日照りが長く続くと三多摩全域の農家は白岩不動尊に詣でて雨乞祈願をし、この滝の中段にある雨乞淵の水の頒布を受けて帰ったという。霊験あらたかであったらしい。今、静かに岩肌を滑りゆく水は清々として、山と登山者に春の盛りを告げている。



白岩の滝までは町の遊歩道ができています。写真左中が雨乞淵。色の深みが信仰心を呼びさすものなのか、神秘的である。



ああら、不思議!

篠 武士さん（一番町）の手にかかると、ボールが幾つにも増え、
右手にあるコインがいつの間にか左手に移動している。

ただの紙切れが千円札に化けるのも朝飯前。

大仕掛けの手品から、小業にいたるまで

自在にこなして観る人をうならせる。

腕はプロ、心はアマチュア。ボランティアで
老人ホームから結婚披露宴、ホテルの宴会場と、
フットワークの軽さもまた篠さんの得意業。



地域文化振興財団主催「表彰式」アトラクションでの篠さん。あざやかな手つきに満場の拍手。どう見てもクロウトです。



するどい剣を一本二本と刺していく。ああ、美女が串刺しに……。見事成功、会場に安堵の溜め息が流れたプロ顔負けの大技でありました。



普段の篠さんはコンビニエンス・ストアの店長さん。話術も巧みに子供の視線を引きつけ、こんなコマも。その上手さお聞かせできないのが残念。



手の中に、どんどんティッシュが消えていく。何度みてもタネがわからず、「ねえ、もう一回やってみて!」と子供たち。





多摩川の朝

9

写真：鈴木克吉
俳句：石塚孝江

連翹忌れんぎょうの

渡るものなき

空の色